令和５年度小松市立串小学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導	〈積極的な生徒指導の推進〉 ・全教職員が一人ひとりの児童にあたたかい声かけ、具体的な成長を伝える言葉かけをするなどして，積極的な生徒指導を行う。 ・「どんな姿になりたいか」目標を考えさせ、目標に向けての活動を児童自身が企画、実践できるよう支援するとともに、生徒指導の４つの視点（自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心、安全な風土）を生かした授業づくりを行い，児童の主体性を育む。 ・いじめアンケートやハートホットタイムを生かして，いじめ・不登校の未然防止や早期解決に努め，児童一人ひとりが「学校が楽しい」と思えるようにする。	○学校は楽しい。（児童） ○なりたいクラスになるためにがんばっている。（児童） ○元気よく学校に行っている。（保護者）	
特別支援教育	〈組織的な対応を行い，個に応じた支援の充実を図る〉 ・特別支援校内委員会で支援のあり方について話し合い，適切な支援を組織的に行う。 ・特別支援教育支援員，学習サポーター、スクールカウンセラー、心の相談員の効果的な活用を行い、支援体制の充実を図る。 ・小松市教育研究センター相談事業，県専門相談員派遣事業を活用し、個に応じた支援の充実を図る。 ・学年間・全職員間で支援の在り方について話し合い，生徒指導との効果的な連携を図りながら，チーム力を生かして適切な支援を行う。	○週に一度，学年間で支援が必要な児童に関しての情報共有を行った。（職員） ○必要に応じて児童理解の会を開き，全職員間で児童の情報共有を行い支援に生かした。（職員）	
道徳教育	〈確かな道徳性を育む道徳教育の推進〉 ・考えたくなる発問、自己の生き方について考えを深める交流を工夫した道徳科の授業を実践する。 ・教育活動全体を通して日常的に道徳的価値を意識できる言葉かけを行う。 ・重点目標の「個性の伸長」「友情，信頼」を意識した活動を設定し効果的な指導に努める。	○考えたくなる発問、自己の生き方について考えを深める交流等を工夫した授業を実践できた。（教員）	
読書教育	〈心が豊かになる読書活動の推進＞ ・朝読書や図書室使用割を設けることで、読書習慣を定着させる。また、「おすすめ１０冊」や図書委員会による企画等で、読書活動の向上に努める。 ・子どもの学習のニーズにこたえられるよう、読書環境を整備し、学校図書館の学習・情報センターとしての機能を高めていく。	○効果的な図書室利用と適切な読書の機会を確保するとともに、おすすめ１０冊や並行読書で、読書の質を向上させるための取組を行った。（職員） ○あなたは、読書や読書の時間（読み聞かせを含む）が好きですか。（児童）	
キャリア教育	（自己の生き方とつなげるキャリア教育の推進） ・授業の振り返りに、学習内容だけではなく、主体性や協働性、学習態度等の成長ついて文章化させることで、「学びの意義」を実感させる場を設定する。 ・総合的な学習の時間を中心に、将来の生き方を具体的に考える場を設定し、実践することで、職業観や勤労観を含め、よりよく生きていこうとする主体性を高める。	○授業を通して成長した。（児童） ○学びの意義を実感させるために、振り返りの書かせ方を工夫した。（教員）	
保健健康教育	〈望ましい生活習慣の確立と体力・運動能力の向上〉 ・メディアへの適切な関わり方を中心に健康的な生活への意識が高まる取組を継続し，望ましい生活習慣の確立をめざす。 ・体力アップ１校１プランの取組を推進することにより，体幹強化となわの運動を通して体力・運動能力の向上をめざす。同時に，正しい姿勢が児童に身に付くように働きかけていく。	○早寝・メディアへの関わり方を中心に，健康的な生活を意識している。（教員・保護者・児童） ○正しい姿勢で学習している。(児童)	
情報教育	<GIGAスクール構想の充実> ・GIGA校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を進め教員のICT活用指導力を高める。学習用端末の使用回数を増やし、効果的な活用を目指す。 ・教員の専門性を生かし、教科特有の学習用端末活用方法について研修を行う。その際、市のサポートや県の出前講座を効果的に活用する。 ・児童が効果的に学習用端末の機能を活用して、友達と協働的に学習する。	○学習用端末を使って友達と考えを伝え合っている。（児童） ○学習用端末を活用した授業を一日一回以上実践している。（教員） ○SKYMENUの機能の使用について上達している。（教員）	
家庭・地域社会との連携	（社会の開かれた教育課程の実現） ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材、地域教材の開発を行い、地域を理解し、地域への愛着を高める取組を行う。 ・家庭・地域に、学校だよりやホームページを活用して、学校の教育活動について積極的に発信する。	○地域を理解し、地域の愛着を高める取組を実践した。（教員） ○生活科や総合的な学習の時間等を通して、地域のことについて考えることができた。（児童）	
学校関係者評価			